



英会話サークル “English Café” のご紹介

英語学習者の大きなフラストレーションのひとつに、「せっかく学んでも英語を使う機会がない」というものがあります。会話学校や海外に行けば、英語話者と接することはできますが、ほとんどの人にとって、日常で英語を使う場面はまだまだ限られているのが現実ではないでしょうか。

そんななか、「英会話サークル」は、手軽に、しかもくつろいだ雰囲気なかで英語を練習できる格好の場です。桐原書店では、社会人を対象としたサークル “English Café” にこの秋から会場を提供し、その活動を支援しています。



さまざまなレベルの学習者が集い、テーマや課題もなく、お互いに英語で話すだけ。参加メンバーには、現役の英語教員やネイティブスピーカーもいますが、「教える・教わる」の関係ではなく、ただおしゃべりに加わるだけです。

言語習得の仮説のひとつに、「不安感が小さいほど言語の習得は進む」というものがあります。幼児が言語を学ぶ過程では、だれもその間違いを言い立てたりしないので、情意が安定して習得が促されますが、成長すると、笑われたり、ばかにされたりするのではないかと感じて緊張し、それが言語の習得を妨げてしまう、というのです。

何にも強制されず、評価もされない安心感のなかで、純粋に会話を楽しむことができるのは、英語を練習する理想的な環境と言えます。また、さまざまな背景を持つ人と触れ合うことで、「練習のための練習」ではない、真のコミュニケーションを目的とした英語使用の場となっています。



機会があればぜひ一度のぞいてみてください。🌿

主催者 栗田智子先生より

大学院で TESOL (英語教授法) を学んだ後、英語を楽しく使えるリアルなコミュニケーションの場を作りたいと思い、アイルランド出身の親友を誘って 2012 年 9 月、東京 四谷にあるカフェバーで開催したのがきっかけです。

それ以来 2 ヶ月に 1 回のペースで催してきましたが、今年 9 月に会場を桐原書店本社オフィスに移し、5 年目に入りました。英語のネイティブとノンネイティブが交ざり、年齢も仕事も経験も違う方たちが集まって、3 時間英語だけで楽しく交流しています。



*開催日時や参加方法は桐原書店の FACEBOOK をご覧ください。
<https://www.facebook.com/kiriharashoten>

🍃 オススメ本の紹介！ 🍃

10月8日、9日に龍谷大学深草キャンパスにて開催された国際ビジネスコミュニケーション学会全国大会において、同学会の元理事長でもある同志社大学の亀田尚己先生に興味深い書籍をご教示いただきました。海外からの旅行客が増えるなか、大変時宜を得た出版物だと思います。簡単ですが、ご紹介させていただきます。



和食の英語表現事典

亀田尚己、青柳由紀江、J.M. クリスチャンセン 共著

丸善出版株式会社

平成 28 年 10 月 10 日発行

四六判 320 頁

定価 本体 3,800 円+税

ISBN978-4-621-30066-4

経験のある方も多いと思いますが、海外からの客人をもてなす際にいちばん頭が痛いのは、日本食の説明です。

最近では、人気の高い神社仏閣などの観光名所には多国語の案内やパンフレットがあり、古典芸能の劇場や美術館・博物館にも英語の音声ガイドが備えられていて、四苦八苦しながら拙い英語で解説するよりもよほど彼らの助けとなります。

しかしながら、せっかく日本に来たのだから伝統的で上質な和食を楽しんでもらいたいと思っても、彼らの“*What is this?*”とか“*How is it cooked?*”という質問に満足に答えられる情報を提供する和食レストランは、まだまだ多くありません。

また、海外での日本食ブームもあって、自国で楽しめる和食の選択肢が増えているせいか、訪日客の要望や質問のレベルも高くなりつつあり、通り一遍の説明では彼らの好奇心を満たせない、といった印象を持ちます。

『和食の英語表現事典』は、そんな悩みを解決してくれる、まさに「救世主」とも言えます。

食材や調味料はもちろん、「たたき」「醤油づけ」「薄造り」といった刺身の種類、「蒲焼き」「照り焼き」「塩焼き」「つば焼き」などの調理法、また近年人気のラーメンのスープの種類、はては割り箸の割り方から寿司を手でつかんで食べる時のマナーなど、外国人旅行客と外食をする際に想定される、ありとあらゆる質問への回答が用意されています。

また、和食文化一般に関する冒頭の一節には、和食の奥深さ、日本人が培ってきた知恵、そして食事に映し出されている日本の四季や風土などが簡潔にまとめられていて、「和食」の価値を再認識させてくれます。

日英併記なので、質問されたら該当する記述をそのまま相手に読ませて楽をしてしまいたい誘惑にかられますが、ここはしっかり本書を学習して、「おもてなし力」の向上を図りたいところです。(斉藤 智)